

WCRP

1

2023

January

No. 519

World Conference of Religions for Peace Japan



学院内の農場で採れた肉と野菜を材料にインドカレーづくり（青年部会アジア学院訪問より）

新春挨拶——庭野日鑽	2
新春挨拶——戸松義晴	3
KCRP代表会長の来日	4
ACRP拡大事務局会議の開催	5
青年部会 アジア学院を訪問	6
ウクライナ難民支援活動レポート	
認定NPO法人AMDA／認定NPO法人 テラ・ルネッサンス	7
訃報 酒井教雄師ご逝去	8
2022年度 平和大学講座のご案内	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8

新春挨拶

WCRP日本委員会 会長
立正佼成会 会長

庭野日鑑



あけまして、おめでとうございます。日ごろから、多大なご支援、ご協力を頂いておりますことに、あつく御礼を申し上げます。

昨年は、日本委員会の舵取り役を担う理事長職の改選が行われました。

退任された植松誠先生は、二期四年にわたって理事長を務められ、深い宗教性と穏やかなお人柄によって、委員会をまとめてくださいました。とりわけ第十回WCRP世界大会（ドイツ・リンダウ）において日本委員会の代表として、平和のメッセージを発信されたのをはじめ、第9回ACRP大会（東京）、WCRP創設50周年記念式典・シンポジウム（京都）という大きな催しを成功に導かれるなど、常に卓越したリーダーシップを発揮してくださいました。これまでのご尽力に改めて深く感謝申し上げます。

新理事長に就任された戸松義晴先生（浄土宗心光院住職、浄土宗総合研究所副所長）は、ハーバード大学神学校で生命倫理学を学ばれ、現在も国際医療福祉大学特任教授として生命倫理の講義を英語で行われるなど、日々ののちの尊厳を守る歩みを続けておられます。日本委員会の歴史を踏まえながらも、そこに新たな展望が開けることを願っております。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻が起り、日本委員会としても早々に紛争和解と人道支援

に取り組みべく勸募金の呼びかけを行いました。有り難いことに加盟教団の皆さまから一億円を超える浄財を頂戴し、難民支援のためのボランティア派遣、海外の諸宗教者を招いた和解のための円卓会議（東京）開催などに役立てることができました。皆さまのご支援に、心より御礼を申し上げます。

また日本委員会は、ウクライナばかりでなく、ミャンマーやアフガニスタンにおいても物的・財的支援を行っています。

ACRPが推進するフラッグシップ・プロジェクト（人身取引防止、いのちの尊厳教育、平和構築と和解などの重点実施事業）についても、日本の役割の大きさを踏まえて、連携して取り組んでいく所存です。

今後十年間の日本委員会の方向性を定めた「アジエンダ2030」については、年々活発化しているタスクフォース（特別事業部門）や常設委員会を通じて、具体化していくことになっています。

今年は、青年部会が発足50周年を迎える年でもあります。この節目を機に、次代を担う青年宗教者の皆さまが、その使命を再確認し、ますますご活躍くださることを心から期待してやみません。私どもも側面から応援してまいりたいと思います。

本年も皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新春挨拶

WCRP日本委員会 理事長
浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職
戸松義晴



新年おめでとうございます。

旧年中も世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会のために、温かいご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

昨年は、世界を揺るがす大きな出来事が起こりました。2月24日、突然ロシア軍が隣国のウクライナに侵攻しました。進攻を受け多くのウクライナの人々が犠牲となり、平和に暮らしていた街を追われ、現在も国内外に避難を余儀なくされています。その人数は国内600万人、国外に800万人と言われ、多くは女性や子どもたちです。

この事態に対し、国連や主要国は役割を果たすことができず、第二次世界大戦以降、世界の平和を保ってきた安全保障体制は大きく揺らいでいます。それと同時に、世界の人々は21世紀に起きたこの事態を、すぐには受けとめることができず大きなショックを受けたのだと思います。

WCRP日本委員会は、3月2日に緊急声明を発表するとともに、ウクライナの避難民に対する人道支援募金を開始しました。7月から多くのウクライナ難民が逃れた隣国ポーランドにボランティア隊を派遣し、10月までに4隊を送り出し支援活動を行いました。これは日本委員会として、海外にボランティア隊を派遣する初めてのケースともなりました。また9月には、ウクライナやロシアをはじめとし

た紛争地域の宗教指導者を日本に招き、対話のための諸宗教平和円卓会議を開催しました。実際に顔を合わせて語り合い、相手の文化を知り、思いを知る。ここから平和へ向けた協働の歩みが始まるのだと確信いたしました。

WCRPの取り組みは、このように、祈りとともに現場に身を置き、人と出会い、語らい、自分のこととして思いをはせる、そして行動する。平和構築のために「思いをかたちにする」ところに社会的使命があるものと思います。

2023年も、この活動の中核を担う、ストップ！核依存・和解の教育・災害対応・気候危機・人身取引防止の5つのタスクフォース、平和研究所、女性部会、青年部会の皆さまと力を合わせ、平和をつくる歩みを進めてまいりたいと思います。また、青年部会は発足50周年の節目を迎えます。未来の世界の平和を担う宗教青年に大いに期待しております。

卯年を迎えた本年も、コロナ禍が見通せない状況となりましょうが、一足飛びにはいかずとも、思いをかたちにするために着実に皆さまと共に歩んで参りたいと思います。

このような取り組みは、日本委員会の役員はじめ、賛助会員の皆さま、関連団体のご理解とご支援があるってのことと感謝申し上げますとともに、さらなるご協力をお願いいたします。

KCRP代表会長の来日

韓国宗教人平和会議（KCRP）のソン・ジンウ代表会長、キム・テソン事務総長が昨年12月21日に来日し、WCRP日本委員会の戸松義晴理事長、篠原祥哲事務局長と懇談した。今回の来日は、昨年、ソン・ジンウ師がKCRP代表会長に新たに就任したことによるWCRP日本委員会への表敬訪問が目的である。

KCRPは、1986年6月にソウルで開催された第3回ACRP大会を契機に発足した。現在、天道教、儒教、仏教、カトリック、プロテスタント、圓仏教、民族宗教の七つの宗教から構成されている。KC



RPは、宗教間の対話による平和構築を目的としており、韓国国内の融和や近隣諸国との友好に取り組んでいる。また、

朝鮮半島の平和に向けた北朝鮮の宗教者との対話や、イラク、フィリピン、スリランカなどの紛争国における和解活動も実施している。

KCRPは、構成される七つの宗教代表者が全員KCRPの共同会長を務め、そのうちの1人が代表会長として選出される。来日したソン代表会長は、儒教教育機関である成均館館長を務めている。

ソン代表会長は、戸松理事長との懇談の中で、儒教の成り立ちや教義などを紹介し、儒教の平和思想について語った。そして、韓国と日本の友好こそが、東北アジアやアジア全域において平和をもたらす原動力となると述べ、日韓の宗教協力をさらに強化していく必要性を力説した。戸松理事長は、自身のこれまでの国際的な宗教対話の経験語りながら、日本と韓国の良好な関係構築のためには、宗教者同士の対話・交流が不可欠であり、今後も一層、両国の友情を育むために尽力すると表明した。また、ソン代表会長から、80歳で博士号を取得した経験が披露され、年齢に関係なく宗教教育においては教育者自身の継続的な自己鍛錬が求められると語った。

翌日には、KCRPとWCRP日本委員



会の実務担当者による今後の両国の対話のあり方について話し合いが行われた。特に、日韓の宗教指導者交流と青年交流に

ついて議論した。日本と韓国の宗教指導者による交流は、2016年ソウルにおいて第1回目が開かれ、第2回目は2018年北海道で開催された。第3回目を2020年に韓国で開催する予定だったが、新型コロナウイルスのために中止となった。この日韓宗教指導者交流について、今後の開催を模索することとなった。また1990年から継続的に実施している日韓青年交流についても、まずは青年リーダー同士の交流から再開することとなった。

最後に、2009年から開催されている韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナーに関しては、2023年2月ソウルにて対面で実施することが確認された。

ACRP拡大事務局会議の開催

タイのバンコク市内において、アジア宗教者平和会議（ACRP）の拡大事務局会議が昨年12月7日から9日まで開催された。同事務局長はACRPの事務総長、副事務総長、事務総長補、東京事務局スタッフで構成されている。この度の開催目的は、2021年に東京で開かれた第9回ACRP大会で採択された東京宣言の具現化に向けて、事務局の果たすべき役割を明確にすること、そして、事務局が有機的な連携を可能とするために、事務局内のチーム作りを図ることを目的に開催された。



同事務局には、広大なアジア地域の活動をカバーするため、東京事務局スタッフだけでなく、アジアの主要な地域に事務総長を補佐する宗教者が任命されている。副事務総長はキム・テソン師（圓仏教Ⅱ韓国）、事務総長補の東アジ

ア担当はガオ・エ氏（儒教Ⅱ中国）、東南アジア担当はパブリト・バイバド教授（カトリックⅡフィリピン）、南アジア担当は、フーマ・イクラムラ氏（ムスリムⅡパキスタン）、太平洋地域担当は、スー・エニス博士（プロテスタントⅡオーストラリア）。またこの会議にはACRPのデスモンド・カーヒル実務議長と神谷昌道シニアアドバイザーも出席した。

会議では主に二つの内容が議論された。一つは、ACRPの中期戦略についての議論（①ACRPフラッグシッププロジェクトのさらなる発展、②各国の宗教ネットワークの強化、③ファンドレイズⅡ資金調達Ⅱの効果的な実施）の三つの柱である。フラッグシッププロジェクトとは、ACRPをより行動的な組織体にするものであり、WCRP日本委員会が、2021年の第9回ACRP大会においてこの事業に対し3000万円の財的支援を行なった事業である。現在、このフラッグシッププロジェクトは、インドネシア委員会、フィリピン委員会、タイ委員会、パキスタン委員会、女性ネットワーク、青年ネットワークの六つの活動主体において実施されている。会議ではこの事業のさらなる実施を展望した。また、現在、22カ国にACRPの各国

委員会が存在しているが、これらの各国委員会のガバナンス強化の必要性が認識され、それぞれの委員会における法整備や政府登録のあり方について検討した。さらに、アジアには50を超える国があり、いまだACRPの委員会が存在していない国に対するアプローチについても議論した。ファンドレイズに関してはより一層のSNS等の広報戦略の実施やACRPトラスティーズの活発化を図ることとなった。

もう一つの内容は、この拡大事務局のチーム作りである。この一環として各人の宗教体験を語り合った。自身がいかにして宗教の重要性を認識したか、人生において信仰を持つことの意味などについて、それぞれの体験を分かち合った。また仏教寺院を訪れ、瞑想体験を行なった。

会議の総括を行なったACRPの篠原祥哲事務総長は、「この1年は新型コロナウイルスの影響で実際に顔を合わせることができなかったが、ようやくそれが実現したことで事務局が一つのチームになったことを実感した。事務局全員が、非常に前向きな姿勢である。混迷する国際情勢において、ACRPが平和創造に向けた希望という明るさを発光し続けたい」と語った。

青年部会 アジア学院を訪問

青年部会では、WCRPに関係のある講師や団体とのつながりを大切にし、ネットワーク強化を行うとともに「食」に焦点を当てた学びを深めている。その一環として、昨年12月13、14日に学校法人アジア学院（栃木県那須塩原市）を訪問。食べ物を中心とした考え方や、食べ物といのちの関係、人間が生きているということについて体験した。

アジア学院は、途上国の農村開発に携わる人材を養成する国際機関として発足。東南アジア諸国で農村開発に携わっていたキ



チャペルでのワークショップの様子

リスト教会とキリスト教団体の要請に応え、宗教的背景の異なる農村指導者を学生として招いてきた経緯がある。1日目は、山下崇講師（アジ



フードライフワークの様子

カレー作りワークショップを行った。ベロ・ルイパ講師（アジア学院職員・宣教師）が食前の祈りを捧げ、動物の「いのちを頂くことの意味」

ア学院職員）がコーディネーターとなって、学院の歴史や理念を紹介した後、「今の気分を色に例えると？」をテーマに気持ちを分かち合うアイスブレイクを行った。

その後「キャンパスツアー」を行い、広大な敷地の中にある農地や鶏舎、豚舎を見て回った。野菜や家畜を育て、収穫や調理、その後のリサイクルまでを一貫して行うアジア学院の「自然とともに共生する循環システム」を肌で感じた。

次のセッションではアジア学院内で育てられた豚肉や鶏肉、野菜を使い、カレーをつくりながら多文化体験ができる「インド

をかみしめながら、食事を頂く時間となった。

2日目には、「朝のフードライフワーク」をテーマに堆肥の素となる落ち葉を集める作業を体験。日陰で霜が降りる環境の中でも、無我夢中で落ち葉をかき集めた。集めた落ち葉は、分解者となる微生物の働きによって発酵が進み、適切な温度管理を行った後、半年〜1年で堆肥となっていく。

参加者からは「土を作る分解者がいかに重要か学んだ。目に見えない自然の働きや循環が私たちの命を育んでいることを再認識できた」「衣食住は天からの恵であり、その基礎は土である。土に改めて感謝の気持ち



幹事会の様子

ちが湧いた」などの感想が上がった。今回の体験を機に、今年5月に行われる青年部会発足50周年記念事業への弾みをつけた。

ウクライナ難民支援活動レポート

WCRP日本委員会が財的支援を行った2団体より左記の活動レポートが寄せられた。

■認定NPO法人AMDA

2022年2月にウクライナで人道危機が勃発し、AMDAは3月から10月末まで合計14名の医師、看護師、調整員を隣国ハンガリーに派遣し、ウクライナ国内外の避難者のために医療を中心とした支援活動を実施しました。

現在もウクライナでは、厳しい冬を迎え、停電も続く中、多くの避難者の方々は過酷な生活を強いられています。AMDAはこの深刻な事態が今後も長期化することを視野に、ウクライナ避難者支援を3月から共に行ってきたハンガリー、キシュバルダにある「ヴァル



ベレグスラーニー・ヘルプセンター仮設診療所にて

ダ伝統文化協会」とブダペストを拠点とする医療団体「メッドスポット」、ウクライナ国内の医療施設、セント

ミッシェル小児総合リハビリセンター（ザガルパツチャ州ウジホロド地区）、ダイナスティメデイカルセンター（ハリキュウ）の4団体を通して、ウクライナ国内で避難されているより多くの方々のために食糧、医薬品、衣料品、日用品、ガソリン代、光熱費などの物資ならびに医療支援を継続して行っております。

これらのAMDAの活動にご支援を賜りました世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の皆様にご心より感謝申し上げます。今後ともAMDAの活動にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■認定NPO法人テラ・ルネッサンス

認定NPOテラ・ルネッサンスは、2022年5月よりハンガリーに事務所を開設し、「誰ひとり取り残さない支援」を目指して、ハンガリーに逃れてきたウクライナ難民の方々と、ウクライナ国内で避難を続ける国内避難民、そして避難民を受け入れているホストコミュニティの生活を支えるため、支援に取り組んでいます。

紛争の影響で避難生活を強いられている人々の中でも、低所得層や社会的なマイノリティなど経済的、社会的により脆弱な状況にある避難民の方々を対象に、食料などの物資支援、避難先の対応、必要な機材の



キッチンポイントでの炊き出しの様子

調達などを継続的に行ってきた。

最近では、ウクライナの冬はマイナス10℃以下になることもあり、極度の寒さに備えた燃料の配布や、暖房設備・住居等の整備、冬服の支援を急務で進め

ています。また、生活支援として食料の提供を行うほか、キッチンポイント（炊き出し拠点）の整備・運営も同時に行っています。その他、難民・避難民の方々の生活の安定と、将来的な自立を目指した中長期支援に注力しており、生活の「保護」と「エンパワーメント」を両立させる、自立型の支援を目指し、CSCCs（Cash for Social Contributions）を実施しています。

※CSCCsとは：対象者の主体性を最大限尊重し、その人にできる社会貢献（モノ作りやサービスの提供）の機会を提供し、現金を給付する支援。社会貢献を仕事として難民の方々に提供し、収入を得ていただくとともに、周囲の人々にモノやサービスを提供している。

酒井教雄師ご逝去



WCRP日本委員会に多大なご尽力をくださいました立正佼成会元理事長・酒井教雄師が、2022年12月25日に逝去されました。

酒井師は、1996年から2002年までWCRP日本委員会評議員、2012年からは参与をお務めいただきました。また、WCRP国際委員会トラスティーとして、WCRPジャパニーズトラスティーズの創設をはじめ、様々な国際的な宗教対話・協力活動に尽力されました。ご生前に賜りましたご厚誼に感謝の誠を捧げるとともに、ご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

2022年度平和大学講座のご案内

世界宗教者平和会議（WCRP）国際委員会と同日本委員会は近年の状況を宗教の立場から打開しようと、昨年9月、「戦争を超え、和解へ」をテーマに、東京都内で14カ国の宗教指導者、政府関係者らが出席し、諸宗教平和円卓会議を開催した。この円卓会議にはロシアとウクライナの代表も参加

し、最後に共同声明を発表した。

今回の平和大学講座では、先の諸宗教平和円卓会議を受けて、諸宗教が紛争・戦争当事者を含め、平和のために何を訴え、どう行動していけばよいのか、皆様と共に考えてまいりたい。

○日時…2023年3月14日(火)14時～17時
○開催方法…対面及びオンライン（ZOOM）

○テーマ…戦争を超え、和解へ―諸宗教は訴え行動する

○主な内容（敬称略）

【基調発題】塩尻和子（筑波大学名誉教授）

【パネルディスカッション】

・コージェイネーター

・竹村牧男（東洋大学名誉教授）

・パネリスト

・神谷昌道（ACRPシニアアドバイザー）

・松井ケティ（清泉女子大学教授）

・田辺寿一郎（早稲田大学留学センター講師）

※なお、プログラムの詳細及び参加方法はWCRP日本委員会のホームページまで。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

土息（といき）

土は生きてる！腐葉土が発酵して温かく湯気が出ていてびっくりした。土は命の源であるとアジア学院で学んだ。

WCRPの活動

《1月》

7日 日本バグウォッシュ会議 第3回公開講座（共催・オンライン）

17日 総合企画委員会（オンライン開催）

26日 理事会、評議員会、新春学習会、茶話交流会（東京・立正佼成会法輪閣／オンライン併用）

31日 気候危機タスクフォース「WCRPのちの森プロジェクト」森の整備作業（埼玉・所沢）

《2月》

10～13日 IPCRセミナー（韓国・ソウル／オンライン併用）

17日 ストップ！核兵器依存タスクフォース第6回会合（オンライン）

20日 女性部会第5回委員会（オンライン）

22日 災害対応タスクフォース第4回会合（東京・普門メディアセンター）

28日 平和研究所第8回所員会議・研究会（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）

青年部会第4回幹事会（京都）

掲載内容の無断転載を禁ず。